

受付番号	2023-24		
許可番号	大歯医倫 第 111284 号		
研究課題名	介護保険施設で就業する歯科衛生士の課題を解決する歯科衛生学教育の確立		
研究責任者	大西 愛	申請者	大西 愛
研究終了日	2026 年 3 月 31 日		
所属	医療保健学部 口腔保健学科	所属	医療保健学部 口腔保健学科
職名	講師	職名	講師

申請の概要

超高齢社会を迎え、歯科衛生士の役割への期待が大きくなったことから、就業場所が拡大し、介護保険施設における歯科衛生士の就業者数は2000年と2020年を比較すると約46.6倍に増加した。就業場所の変化から、これからの歯科衛生士には疾患の治癒を重視する「医学モデル」だけではなく、個人と環境との相互作用を念頭にいた、生態学的視座をもつ「生活モデル」の視点も必要になる。1970年代にソーシャルワークの分野でGermain&Gittermanによって提唱された「生活モデル」については現行の歯科衛生学教育で少しずつ取り入れられているが、歯科衛生士に定着しているか否かは不明である。

そこで、介護保険施設に勤務する歯科衛生士が「生活モデル」の視点をもって業務を遂行できるようになるには、歯科衛生学教育において、どのような教育が必要であるかを明らかにする。研究の第一段階として、2023年度に、介護保険施設に勤務する歯科衛生士及び歯科衛生士以外の専門職を対象としてアンケート調査を実施し、その調査結果に基づいて、同様の対象者にインタビュー調査を行い、介護保険施設に勤務する歯科衛生士が「生活モデル」を視点として業務を遂行するに当たり、どのような課題（阻害要因等）があるのかを明らかにすることとした（今回申請した研究はこの第一段階の研究である）。

そして、第二段階として、2024年度に、明らかになった課題を解決するために必要な知識やスキルについての教育的介入を実施し、有効

性を検証する。その上で、第三段階として、2025年度に、第二段階で得られた知見をもとに、介護保険施設に勤務する歯科衛生士が「生活モデル」の視点をもって業務を遂行できるようになるには歯科衛生学教育において、どのような教育が必要であるかを明らかにする。

第一段階から第三段階の調査研究より、歯科衛生学教育に「生活モデル」の視点をもって業務を遂行できる内容を導入することができれば、今後、介護保険施設に勤務する歯科衛生士がより適切に業務を遂行できるようになるとともに、入所高齢者の QOL の向上の一助を担うことができるものと期待される。